平成29年度第1回 国立市保健センター運営審議会 会議録

日 時

平成29年8月2日（水） 午後1時15分から2時45分まで

場 所

国立市保健センター 1階 指導室

出席者

委員8名

（出席：浅倉委員、佐藤委員、高橋委員、鏑木委員、辛島委員、樋口委員、坂井委員、清水委員）

（欠席：吉川委員）

事務局10名

（馬橋子ども家庭部長、堀江健康づくり担当課長、宮崎子育て支援課長、橋本健康増進課長補佐、坂本保健センター主査、清水保健センター主査、木村子ども保健・発達支援係長、前田子ども保健・発達支援係主査、飛田子ども保健・発達支援係主査、児玉子ども保健・発達支援係主任）

議 題

- （1）平成28年度決算報告について
- （2）平成29年保健センター事業計画について
- （3）その他

浅倉会長：ただいまから平成 29 年度第 1 回の国立市保健センター運営審議会を開催させていただきます。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

保健所の人事に伴って、大石委員から吉川委員に変更となりました。吉川委員は本日欠席との連絡をいただいておりますので、よろしく申し上げます。

そしてみなさんにはお願いがありますが、議事録を作成しておりますので、録音しております。そのために発言をされる場合は挙手をしてお名前をおっしゃっていただいて発言をお願いいたします。それでは議題に入る前に事務局から 7 月からの組織の改正についての説明をよろしく申し上げます。

堀江課長：委員のみなさまご出席いただきましてありがとうございます。それではお手元の保健センター運営審議会資料の NO.3 をご覧いただけますでしょうか。今年の 7 月 1 日付で組織改正がございまして、これまで保健センターの運営につきましては、健康福祉部健康増進課、係が 2 つございまして、予防推進係と保健事業係の 2 係で保健センターの事業を運営してきたところでございます。7 月 1 日付で 2 つの係が保健センターということで 1 係に統合されております。予防推進係はこれまで特定保健指導と特定健診、それから災害の対応等、新型インフルエンザ等の対応等の事務をを行ってきた係です。保健事業係は健康づくり、健康増進事業、予防接種事業、それから畜犬登録、そういったところを担当していた係ですが、今後はこの 2 つの係が 1 つになります。所掌する主な事務ですが、今度は母子保健事業、それから小児の予防接種事業、特定不妊治療費の助成事務は子ども家庭部の子育て支援課へ移管されました。その部分が抜けまして、7 月からは成人の予防接種事業、健康増進事業、特定健診、特定保健指導、健康増進計画の推進に関する事、感染症に関する事、畜犬登録と狂犬病予防に関するところが主だった事務となります。そして新たに母子保健等の事業の移管に伴いまして、子ども家庭部子育て支援課に、旧係としましては発達支援室という係がございました。

そこに新しい係を作りまして、子ども保健・発達支援係という係ができております。そこに母子保健等の事業を移管したということになります。その主な所掌する事務ですけれど、母子保健事業、小児の予防接種、特定不妊治療費の助成事業、子どもの発達支援に関する事ということになります。それでは、今日出席している新しい子ども家庭部の職員をご紹介させていただきたいと思っております。子ども家庭部の馬橋部長です。

馬橋部長：子ども家庭部長の馬橋でございます。今、説明があったとおり組織改正がございました。これまで子ども家庭部では保育園、児童学童や子ども家庭支援センター、発達支援室、こういったものを所管していたのですが、そういったものをより連携を深める、より深く広く地域の子育て支援に力を入れたいと思っております。こういった組織改正を行いましたので、今後もみなさま方のご協力をいただければ大変うれしく思います。どうぞよろしく願いいたします。

堀江課長：子ども家庭部子育て支援課の宮崎課長です。

宮崎課長：子育て支援課の宮崎と申します。よろしくお願ひいたします。従来、妊娠届は住民票のほかに市民課で受付していたのですが、組織の見直しとともに、妊娠届の際から今後は切れ目のない支援ということで組織改正を行いました。子どもの総合相談ということも担って参りたいと思いますので、母子保健、妊娠前からの支援ということになりましたので、どうぞよろしくお願ひいたします。

堀江課長：そして私が、今までは予防・健康担当課長という名称だったのですが、役職名が変わりまして健康づくり担当課長ということになりましたので、引き続きよろしくお願ひいたします。それから左隣りにいきまして、健康増進課課長補佐の橋本です。課長補佐と兼務で健康推進担当係長の事務取扱ということになります。

橋本課長補佐：健康増進課課長補佐の橋本と申します。引き続きよろしくお願ひいたします。

堀江課長：それでは後列の方にいきまして、同じく健康増進課保健センター主査の坂本です。

坂本主査：坂本でございます。引き続きよろしくお願ひいたします。

堀江課長：その隣りにいきまして、同じく保健センター主査の清水です。

清水主査：清水でございます。4月に異動になってきましたので、新しく審議会に加えさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

堀江課長：その隣りが、子育て支援課子ども保健・発達支援係の木村係長です。

木村係長：木村と申します。7月に新しくできた子ども保健・発達支援係の係長でございます。よろしくお願ひいたします。

堀江課長：その隣りにいきまして、子ども保健・発達支援係の前田主査です。

前田主査：前田と申します。よろしくお願ひいたします。

堀江課長：その隣が同じく子ども保健・発達支援係の飛田主査です。

飛田主査：飛田と申します。よろしくお願ひいたします。

堀江課長：以上が新しいメンバーになりますので、よろしくお願ひいたします。組織改正につきましては以上です。

浅倉会長：組織改正について説明がありました。分かりにくいですが、おいおい慣れていただければと思います。よろしいでしょうか？

坂井委員：1つ聞いていいですか。今日の本題に関係ないかもしれませんが、主査というのは役職でいうとどういうことになるのですか。

馬橋部長：主査は位置づけとしては係長と同じですね。

坂井委員：ありがとうございます。

浅倉会長：他になければ、本日の議題に入りたいと思います。まず、事務局の方から今日配布された資料について確認していただきたいと思います。

坂本主査：それでは着座にて失礼します。資料の確認させていただきます。本日の次第はA4 1枚になります。それから保健センター審議会資料 No1 平成 28 年度保健センター事務事業別歳出決算一覧表（一般会計）、これが A4 1枚になります。

資料の No.2 平成 29 年度国立市保健センター事業計画、ホチキス止めをしてありまして横長のものになります。資料 3 につきましては、今、課長の方からご説明があった資料になります。あとですね、資料といたしまして、第 4 回新 GO！ 5！健康大作戦というものと、カラー版の地図があると思いますが、みんなでく にたちを歩こう健康ウォーキングマップということで、No1～9 まで 9 コース ございます。配布した資料は以上でございます。資料 1 と 2 につきましては事前にご郵送等させていただいてますが、若干内容を修正いたしましたので、本日 配布させていただいた資料をお使いいただければと思いますので、よろしくお願 しいたします。資料の過不足はございますでしょうか？よろしいでしょうか？ それではよろしくお願しいたします。

浅倉会長：資料の確認が終わりましたので、議題に沿って議事を進めさせていただければ と思います。まず、議題の 1 の平成 28 年度決算報告について事務局からお願い します。

坂本主査：それでは引き続き、ご説明をさせていただきます。お手元の保健センター運営 審議会資料 No1 をご覧ください。こちらにつきましてご説明をさせていただきます。事務事業区分ごとに、予算額、決算額、残額が明記されております。金 額につきましては円単位でございますが、残額につきましては千円単位でご説 明をさせていただきます。また、時間の都合上、残額 100 万円以上のものにつ きましてご説明をさせていただきます。保健センターの予算につきましては、1 の保健衛生費総務費から 3 の保健センター費と 4 の環境衛生費の一部となりま す。それでは 2 の予防費からご説明をいたします。(1) の乳幼児子育て支援事 業費ですが、主な支出内容につきましては、母親学級、新生児訪問等の委託料 となっております。予算額から決算額を差し引きまして 145 万 1 千円の残額と となっております。残額の主なものといたしましては、委託料のうち新生児訪問 につきましては個人の助産師さんに委託をお願いしているところでございます が、当初予算では、この訪問を 420 人分ということで計上していましたが、平 成 28 年度の実績としましては、337 人ということで、額としては、58 万 1 千円 の残となりました。続きまして、(2) 母子保健関連経費ですが、主な支出内容 は乳幼児健診、乳幼児歯科健診等の国立市医師会・国立市歯科医師会さん等に お願いをしております健診の委託料と里帰り出産等妊婦健診費用助成、特定不 妊治療費助成費等になります。予算額から決算額を差し引きまして 543 万 5 千 円となっております。主な残額につきましては、平成 28 年度より助成を開始い たしました特定不妊治療費助成費と里帰り出産等妊婦健診受診費用助成費とな ります。東京都におきまして、不妊に悩む方への支援事業として、医療保険が 適用されない不妊治療を受ける方に対し、特定不妊治療に係る医療費助成が実 施されております。こちらは治療の内容に応じまして、7 万 5 千円から 25 万円 となっております。この東京都の助成決定者の方に対しまして、特定不妊治療 費に係る医療費としてお支払いをした額から都の助成を差し引いた額につつま

して、東京都の規則に規定する治療内容に応じまして、市では1万円から5万円を上限といたしまして助成をしております。こちらにつきましては当初予算では、助成見込者数を174人として計上しましたが、助成決定数、延べ人数になります。また、里帰り出産等妊婦健診受診費用につきましては妊婦健診の費用を最大14回分助成しているところですが、2～14回目については当初予算では、893回分を計上いたしておりませんでした。実績では696回でした。平成28年度の年度途中で補正予算を組みまして、それぞれの合計で456万円を減額補正をしたのですが、決算としては、トータルで543万5千円の残となりました。続きまして(3)の予防接種関連経費ですが、主な支出内容につきましては、小児及び高齢者の予防接種に係る国立市医師会さん等にお支払いをしている予防接種の委託料になります。予算額から決算額を差し引きまして707万9千円となっております。主に予防接種の委託費用の残額となっております。平成28年度に予防接種法の施行令の一部を改正する法律の施行がございまして、B型肝炎ワクチン予防接種につきましては定期化になりました。費用については全額公費負担となりますが、定期化が年度の途中の10月から開始されました。平成28年度の当初予算では計上していないため、補正予算として856万9千円増額いたしました。対象者を1,224人と見込みましたが、接種者は940人となっております。予防接種委託料全体では681万1千円の残となっております。予防接種の委託料につきましては、予算編成する際に多少予算の幅を持たせております。元々の予算額が大きいものですから、執行率としては95パーセントとか96パーセントとかそのあたりまではいっているのですが、残額としては大きいものになっております。続きまして(4)健康づくり事業費ですが、主な支出内容、日常生活における身体活動量、歩数でございますが、これを増やす取組みを促進し、生涯にわたり健やかに暮らせる社会の実現を目指すことを目的といたしまして先ほどご紹介しました市内9コースの健康ウォーキングマップを市民グループの方々のご協力によりましてこれまで作成していたところです。平成28年度にカラー版ということで全面改訂いたしました。その改訂に伴う印刷製本等の費用です。また、もう1つは、平成26年度からの事業といたしまして、健康寿命を延ばし生活の質の向上と医療費の抑制を図るため実施しています「いきいき地域保健師活動事業」の中で肥満対策として18～64歳の肥満の方を対象に、約5ヵ月間で5パーセント程度の減量を支援する「GO!5!健康大作戦」のPRリーフレットの作成費用等になります。予算額から決算額を差し引きまして125万4千円の残額となっております。続きまして、(6)成人健診関連経費でございますが、主な支出内容は平成20年度から医療保険者、国立市でいうと国立市の国民健康保険になりますが、特定健診を実施することになっております。その際、項目につきましては、それまでの基本健康診査より少なく、市民の健康づくりのために市の方で項目を付加して実施しています。この付加健診の部分になります国立市医師会さん等に委託して

いる健診の委託料、また、特定健診と同時に実施しております、こちらは国立市歯科医師会さんに委託しております成人歯科健診、その健診の委託料が主なものとなり。予算額から決算額を差し引きまして191万9千円の残額となっております。続きまして(7)各種がん検診関連経費でございますが、予算額から決算額を差し引きまして196万9千円の残となっております。主な支出内容は、胃がん、乳がん、子宮頸がん検診等の検診委託料の残額となっております。また、平成28年度には「国立市第2次健康増進計画」に基づきまして、今後のがん検診事業について、がん予防の啓発推進やがん検診の受診率向上を目的といたしまして、効果的かつ具体的な施策を実施していくため「がんアクションプラン」の策定を進めて参りました。続きまして、大きな3の保健センター費ですが、主な支出内容は施設の維持管理費となっております。予算額から決算額を差し引きまして266万3千円の残となっております。主な残といたしましては、節約の効果もありまして、光熱水費が23万円、施設をもっているものから、緊急修繕費として50万円予算計上していましたが、予算額を超える緊急の修繕はございませんでしたので、残として25万円、それから庁舎の清掃等管理委託を業者委託しておりますので、契約差金として36万円となっております。残額100万円を超えるものにつきましては以上でございますが、2つの事業におきまして決算額0円のものがございますので、簡単にご説明させていただきます。2の予防費の(11)機能訓練事業費でございますが、こちらにつきましては健康増進法に基づきまして、心身の機能が低下している40歳から64歳までの方で、医療終了後も継続して機能訓練を必要とする方々に対しまして、心身の機能の維持回復を図るために必要な訓練を行って、日常生活での自立を助ける事業ということになっております。ただし、平成28年度の実績はございませんでした。平成29年度以降につきましては、介護保険事業の方でフォローできるということで、そちらの方に事業は移行していくというかたちになります。もう一つ、4の環境衛生費(1)感染症対策事業費でございますが、こちらにつきましては感染症予防・医療法に定められた感染症でございますが、1類から4類まで分類があり、このうち2類のポリオ、ジフテリア等から4類のE型肝炎、オウム病等が発生した場合に、保健所から市町村に消毒の指示がございまして、市町村が感染症の発生した家屋を消毒することになっております。平成28年度につきましては、感染症の発生がなかったということで、決算額は0円となっております。簡単ではございますが、以上が平成28年度決算の報告になります。ご審議の程よろしくお願いたします。

浅倉会長：説明が終わりましたけど、どなたか？ないですか、では私の方から、今説明があったんですけど、残が100万以上について説明していただいたんですけど、最初の方は事業の対象者が減ったという説明でしたが、4番、6番、7番については、残額が多かった理由の説明がなかったのですが、どうしてこれは残ったのでしょうか？事業の内容のお話はされたんですけど。2の(4)(6)(7)です

ね。

堀江課長：予防費の成人健診、各種がん検診のところでしょうか？

浅倉会長：はい、それと4番の健康づくり事業費です。ウォーキングマップを作ったりしているところです。予算計上額と執行額の差が100万以上ありますが理由が説明されていなかったと思うのですが。

堀江課長：まず、健康づくり事業費ですけれども、ひとくくりで健康づくり事業費とさせていただきますが、これを紐解きますとかなり中身が細かく分かれておりまして、色々消耗品を買うものとか印刷製本するものとかそれは需用費という言い方をしております。それから使用料、賃借料を含めまして、あと委託料も含めまして、この事業の中でも予算が細かく分かれてございます。それぞれ合算して100万を超えているのですが、それぞれの項目ごとに分けていきますと、数万円単位で残っていたりということもございまして、合計では100万円を超えてしまっているというところはあるんですが、それぞれの項目で見っていきますと、そのような金額の合計でこのような金額になっております。6の成人関連につきましては、ここで一番大きいのは特定健診を実施しておりますが、特定健診の項目は国の方で定められておりまして、ただ、特定健診の制度ができる以前のところの健康診査というのを国立市がずっと実施していたのですが、その項目が特定健診の制度ができて、そこに含まれていないものがありまして、ただ、それは移行するにあたってその項目を残しているということで、いわゆる付加して実施しているというところがありますので、その費用につきましてはこちらの予防費、成人健診関連経費ということで予算化をさせていただいております。対象者の方は当然それなりに多いのですが、やはり対象者全員に受診していただくというのがなかなか難しく、受診者数が当初見込んでいたよりは少ないということがございまして…予算額としてはかなり大きい額ですので、パーセントでいきますと先ほどお話がありましたけれど予算額全体の4~5パーセントくらいというところでこのような金額になった次第です。それから7番の各種がん検診関連経費ですが、これは5大がん検診といたしまして、胃がん、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がんの5つのがん検診を実施しております。当然、対象者は違いますが、基本的に女性のがん検診以外は40歳以上の方を対象としておりまして、対象者は国立市民の方であれば、全員なのですが、これもなかなか受診していただくような勧奨を実施しているのですが、思ったよりも受診率の向上につながっていないところがありまして、当初見込んでいた数よりも受診者数が少なかったということで、それぞれのがん検診で対象者よりも実際に受診された方が少なかったということで、このような残額が生じた次第です。残額の説明については以上となります。

浅倉会長：よろしいですか。

坂井委員：6番の成人健診関連経費ですが、昨年もお尋ねしたのですが、健診できる歯科医師さんというのがある程度限られているのと、どうしても成人ですと仕事をも

っている方が多いものですから、時間的な制約がありまして、私も仕事をしているときに大体 5 時くらいに終わってしまうんですね、そうすると会社を休んでまでなかなか健診ができないということがあって、健診を受ける環境をとってはなかなか厳しいんですよね。制度はあるんだけど実態に即してないということが多いのではないかと思うので、全ての歯科医師さんにやっていただければありがたいし、時間的なところでは、祭日の日にそういった時間帯を設けていただくということをしなるとなかなか受診率は上がらないと思うのですが、昨年と比較して受診率が上がっているのかどうかお聞きしたいのと、今後そういったご努力をされていく予定があるのかということをお聞きしたいのですが。

浅倉会長：受診医療機関の全ての…

坂井委員：そうですね、全ての…あと夕方 5 時で終わりとか、早退してこないと受けられないとか、日曜日休みとか土曜日だと予約が取れないとかそういうことがあって…健診が一番大事だと思うんですね。歯が痛くなってからではおそらくかなり進行していると思うので。

浅倉会長：事務局の方はいかがですか？

堀江課長：成人歯科健診の受診者数ですけれども、平成 27 年度の合計が 5,084 人の方が受診されておりまして、平成 28 年度は 5,158 人の方が受診されておりますので、人数としましては、70 名くらいの方が若干増えたというような状況です。先ほど言われた時間のところ、土曜日曜の受診につきましては、成人歯科健診に限らず、国保の特定健診も含めまして、やはり受診率の向上には、受診機会の拡大といったことが必要だということは十分こちらも認識しておりまして、歯科健診の場合ですと、国立市の歯科医師会さんの方に委託をさせていただいておりますので、今後また、そういったところで今後受診機会の拡充ができないかご相談をさせていただきながら、検討していきたいと思っております。それは歯科健診に限らず、他の健診も、がん検診もそうですが、日中お仕事をされていてなかなか受診できないという方、そういった方がいらしゃるのは事実ですので、その部分について、市民の皆様の実態といいますか、声を把握しながら検討していきたいと思っております。

坂井委員：ありがとうございます。

佐藤委員：基本的に国立市の成人歯科健診は国立市の歯科医師会に属している先生、非会員の先生は国立市と契約上できないことになっているので、そういった意味では大体 50 軒ほどの歯科医院がありますが、その先生方が行くと。診療時間はそれぞれの診療所によって異なっておりますので、早く終わってしまうところもあれば、7 時 8 時までやっている先生もおります。ただ、通常は、診療を受ける患者さんの予約がまず入っておりますので、その隙間に健診の患者さんを入れていくということになると思っております。そこで時間が合えば、希望される時間に受診できるということもありますが、やはりアポイントがいっぱいになった場合には今日は難しいという状況は起こりうると思っております。ただ、今お話があ

ったように市民の皆様の受診率を上げるという意味では、そういったことを今後歯科医師会としても検討していくことは必要であると私は考えております。

坂井委員：そうですね、お話は理屈が通っていて、そのとおりですということにはなるのですが、実際、東京都でも2080運動という形で、われわれ高齢者の健康増進に向けて歯というの大事だということをやっているのは分かるのですが、実際のところ、特に歯の場合は健診というのが、がん検診もそうでしょうけど、非常に大事だと思うんですよ。なかなか健診ということではハードルが高い気がしたり、先ほど歯科医師会に属していないと国立市との契約が結べないというお話、昨年もたしか聞いたと思うんですけど、そこらへんのところ、矛盾とは言わないんでしょうけど、何とかならないのかなという気がするんですけど…近所の歯科医がやってくれていればいいんですけど、そこがやっていないということで、どこでもいいのかなといたら、うちはやっていませんと断られることも多々あるんじゃないかと思うのですが…理屈は分かるのですが、そこを全ての歯科機関で受診できるようにして欲しいなということだけなのですが…制度的なものは非常に理解できるのですが。

浅倉会長：案内に受診できる歯科医院一覧は出ているんですよ？それを見ていただくことが一つなんですけれど、歯科医師会以外の医療機関との契約の話ですが…いかがですか？

堀江課長：今までその部分について、いわゆる歯科医師会さんに加入されていない歯科医の先生、医療機関との契約という部分は、事務局の中ではこれまで議論していませんでした。たしかに歯科医の先生で、歯科医師会に加入されていない、他の内科の先生とかの医師会さんの加入率で比べますと、歯科医の先生の方がそういった医師会に加入されている医療機関が少ないという傾向はあるようですので、そういったところを考えますと、そういった点についても今後は研究していかないといけない部分かもしれませんので、ご意見をいただいたことを踏まえまして、事務局でもそのへんの状況を調査した上で検討していきたいと思っております。

浅倉会長：例えば、医師会の方からしますと、医師会に入っていない医療機関の情報を十分把握できない、どういう医療をしているかといったことは、ある程度公的な機関に加入している医療機関ということに基本はなってしまうのではないかと。医師会に加入していないところで健診を受けている自治体もあるのですが、内容をきちんと把握されているのか気になりますね。そういうところで、公的な事業なので、内容をある程度把握できるような状況にしていくべきかなと。これは私の個人的な考えですが。

堀江課長：それと付け加えて会長よろしいでしょうか？

浅倉会長：はい。

堀江課長：一つ課題となることとしましては、今医師会さんと契約すれば、一本で委託料の支払いなんかも事務局を通してできるのですが、それぞれ個別の独立した医

療機関となりますと、それぞれと契約を交わして、支払いもそれぞれの医療機関と行うという事務的な煩雑さというのはかなり出てくると思います。そこは一つ課題になるかなという気はします。今であれば、それぞれの医師会さんの事務局が全て取りまとめていただいているんですね、その月はどこで誰が何人受診したかということ全部集計してくれているんですけど、そういったところが個別の医療機関との契約ということになると、それは市と直接契約を交わして委託料の支払いをそれぞれの医療機関ごとに毎月実績を確認してお支払いをしなければならないという煩雑さは出てくると思います。

坂井委員：そこらへんは私も存じ上げていなかったものですから…それと医者になった限り医師会にはみなさん加入されているものだと思っていたんですけども、昨年聞いたときに、かなりそういった団体には入っていないというお話を聞いて、そんなにだったのかなとびっくりしたんですけども…たしか半分くらいしか入っていないんですね…そこら辺の方を直すのが先なのかそれとも個別に努力する方が先なのかということになるんでしょうけど。

浅倉会長：それからもう一点、内容が分からないということなんですけど、医師会についてお話をしますと、特定健診のデータはまず医師会を通して 1 回チェックするんです。ですからそこである程度チェックはされます。変なところはそこでチェックして返すということです。そういうところは医師会でないとできないというところがあります。よろしいですか、他に何かございますか？なければ議題の(1) 28 年度決算報告については終わらせていただいて、次の(2) 29 年度保健センター事業計画についてをまた事務局の方から説明していただきます。資料がいっぱいあって全部説明すると大変なので、ポイントだけやっていただいた方が時間的にも…よろしいですか？お願いいたします。

前田主査：それでは子ども保健・発達支援係の前田の方から、主に母子保健に係るものについて平成 28 年度と比較して変更があったもの、母子事業について説明をさせていただきます。お手元にごございます平成 29 年度国立市保健センター事業計画をご覧ください。資料 No2 となります。1 番の子育て支援事業の(1) になります。母親学級・両親学級についてなんですけれども、平成 28 年度までは 1 クール 4 日間のコースと半日コースを設けておりましたが、中々 4 日間全部を通してのご出席というのが難しいという部分がありましたので、今年度からは 2 日間コースと短縮して、そのうちの 1 日をパートナーの方にもご参加しやすいように土曜日を空けたような日程で組んでおります。対象は今までどおりで変わりございません。次に(2) なんですけれども、妊婦歯科健康診査なんですけど、従来の両親学級が 4 日間コースであったときに、昨年度まではその初日に合わせて抱き合わせるような形で歯科医師会の方にご協力いただいて実施してはいたんですけども、両親学級が 2 日間コースに変わったこともありまして、妊婦歯科健康診査については、妊婦健康診査単独で、これのみで両親学級の参加の有無にかかわらず、ご参加いただくような形で年 6 回実施ということで変更しており

ます。次に2ページをご覧ください。(7)のあそびの教室「くれよん」になります。対象は1歳6か月健診、3歳児健康診査で少し発達面で経過をみておいた方がいいなという親子を対象にして従来から実施していた事業なんですけれども、昨年度までは1クールを6回としていたんですけれども、親御さんのご都合だったりとか、特に冬場はお子さんが体調を崩して出席できないこともありまして、2~3回欠席してしまいますと半分しか出席できないというようなこともございまして、全体を通して事業に参加していただいても評価しづらいという部分がありましたので、今年度からは少し長めに1クール10回、3クールとして実施しております。次にですね、5ページになります。(28)、7月1日の子どもに関する総合相談窓口の開設に伴いまして、子育て支援課の市役所の方で妊婦全数面接を開始しております。出産・子育て応援事業として、妊娠期からの切れ目のない支援ということで、昨年度までは妊娠届を市民課の方で受理していましたが、今年度からは子育て支援課が窓口となりまして、こちらに妊娠届を出された妊婦さんを対象に保健師がその場で面接を行いまして、育児パッケージということで今年度はカタログを進呈をさせていただいております。その他従来から北市民プラザ、保健センターの方でも妊娠届を受理していたのですが、保健センターの方は従来から保健師がおりますので、市役所と同じように対応しているんですけれども、北市民プラザにつきましてはテレビ電話という形で対応しております。ただ、テレビ電話については中々詳細な面接ということができませんので、いったん顔を拝見して、今後改めて会うという形で対応しております。その次の(29)なんですけれども、こちら子どもの総合発達支援事業ということで、こちらに関しては平成29年度組織改正統合事業という形で、今までも実施をしていたんですけれども、組織改正で統合になったということで、母子保健と切れ目のない形で実施するというのでやっております。子育て心理相談の専門相談事業に加え、養育の通所事業、その他に発達支援における研修、講座を実施しております。新規事業につきましては以上になります。

浅倉会長：以上ですか？

堀江課長：続きまして成人事業につきまして…

橋本課長補佐：はい、そうしましたらおめくりいただきまして、6ページの下のところから、健康増進事業ということで、記載しております。新しいところと言えば、28年の2月に健康増進計画というものを作成しまして国立の健康課題として、糖尿病の重症化患者数が多いことと、がん、特に大腸がんです、そちらの死亡率が高いということで、2つ大きく健康課題として考えております。9ページの(5)の大腸がん検診と特定健診のセット受診というところの欄に書いてございますが標準化死亡比が東京都と比べても10パーセントから20パーセント高い比率になっているということです。これに対して何とか手を打っていかねばいけないということで、がんに関しては、アクションプランということで作って

いこうと、健康増進計画の方に書かせていただいております。7月にまとまりまして、ここでちょうど決裁も下り、正式に決まったところではあるのですが、本日ご用意できなかったのですが、がん対策アクションプランというものを作りました。どういったものかと言いますと、アクションプランですので具体的に何をやるのということが書いてございます。特色としましては、ソーシャルマーケティングという手法を用いまして、ターゲットを絞って効果的な受診勧奨を行っていかうということやがん検診受診率が低いままです、こちらの方をどうにか高くしていかないと死亡者も減っていかないだろうということで、効果的ながん検診ということも考えてございます。あとですね、精度管理ということも大事なことでして、がん検診を受けられた方で要精検になられた方に対してその後のフォローをしていくということもやっていかうということで記載させていただいております。がん検診のお話に戻りますけれども、受診率を上げるためにどうしたら良いかというところで、プランに先立ちまして調査もかけまして、東京都の方で集約していますががん検診受診率は低いのですが、改めて調査をかけてみますと、会社で受けられる方がかなりいたということで、そういった方々を入れれば、そんなに低いのではないということが分かりました。ただですね、国民健康保険の方、加入者の方ですね、その方が低いということも分かりましたので、国保の方、特定健診ですね、国立市では毎年健診という名称をを使っておりますが、そちらの方で受けるときに大腸がん検診も合わせて受けられるようにしたらどうかというところでセット受診を今年度から行っているところです。ここで5月、6月分が出てきましたが、いつもの年より3倍の件数を大腸がん検診で出しておりますので、かなりいいペースで効果的に記録が出てきているのなというのを感じております。がん検診に関しましては、そういったことが1番目なのかというところで進めさせていただきます。もう一つの糖尿病に関しましても、昨年度と違い新たに始めたこともございます。こちらについては清水主査の方から。

清水主査：はい、11ページの(2)をご覧ください。個別のヘルスサポート、肥満対策として、「新GO!5!健康大作戦」ということでこの事業についてご紹介させていただきます。子育て世代、働き盛り世代の方を対象にしまして、昨年度第3回目のGO!5!健康大作戦といたしましてはBMI25以上の肥満の方を対象として、個別相談とウォーキング教室を通して減量に取り組んでいただくような教室をやっておりました。カラー刷りのパンフレットの方をご覧ください。1ページ目のところで、今年は第4回目になりますが、新GO!5!とさせていただきます、何が「新」なのかというところですが、昨年度はBMI25以上の肥満の方を対象にした減量教室ということでさせていただいたのですが、今年は国立市の健康課題で先ほど橋本も言いました糖尿病の重症化予防というところも含めまして、血糖値の高い方、糖尿病療養中の市民の方も対象にさせていただきます。5か月間個別相談やウォーキング教室を利用して減量や血糖値の改善の目標に向かって

取り組んでいただく教室として新たにリニューアルさせていただきました。そこが大きく違うところになります。内容としましては、個別相談、ウォーキング教室は変わりませんが、血糖値が高い方もですね…一番後ろのページをご覧くださいと、5か月間目標に向かって取り組んでいただいた方に関しては、血糖値の改善が見られた方もあわせて、インセンティブとして国立のロゴが入った健康Tシャツを配らせていただいています。すごく機能的なTシャツになるんですが、これを目標にして頑張ってもらっしゃる方、スタートを切ってもらっしゃる方が60名強いらっしゃいますので、個別相談も満員御礼の日もありました人気の事業になっております。血糖の改善につきましては、この健康大作戦も一つなのですが、それ以外にも成人の個別の栄養保健相談に関してですとか血管長持ち大作戦ですとかそういうところでも血糖コントロールの改善、動脈硬化の予防というところで個別相談をやっているところになります。私からは以上になります。

橋本課長補佐：健康づくりに関してましては栄養の方と運動の方とか睡眠の方とかですね、大事な要素がございまして、がんに関しましても糖尿病に関しましても共通した部分があるかと思うんですけど、特に運動面でいえば、ウォーキング、国立市民の方は本当にウォーキングされる方が多くてですね、大学通りにも距離が書いてある標識ですね、地面に埋め込まれていたりして、朝も夜も、治安も割といい所ですので、みなさん一生懸命歩いてもらっしゃる方も多いかと思えます。ウォーキングマップ、こちらの方もカラー版ということでお付けさせていただきましたけれども、市民の方々にグループになっていただきましてそちらの作成をするのを手伝っていただきました。新しくカラー版ということでリニューアルさせていただきました今年には市制施行50周年ということもございまして、それにあやかってですね、ウォーキングマップ完成もありまして、ウォーキングを4回、29年度は行う予定です。野菜の方も摂らなければというところで、栄養面も考えておりまして、ウォーキングと野菜の摂取というのをリンクさせるために、農業まつりというのが11月にございまして、そちらの方でも栄養講話を行ったりしながら啓発活動をしていきたいなと思っております。そういった行政からの啓発活動だけではなく、市民の方も一緒にということで行っていききたいと思っております、一番最後11ページの18番に書いてございます健康づくり推進員活動の方も今年度行う予定で考えておりますので、健康に関してみなさんの知識が上がって行動する人が増えてというような形で行っていかれると思っております。以上でございます。

浅倉会長：保健センターの事業報告について主なところを説明していただきましたが、何か質問、あるいは提案はございますでしょうか？

鎗木委員：市民としてというかいくつかあるのですが、これ（第4回新GO!5!健康大作戦のチラシ）は、市報には含まれていたのですか？見逃してしまったのですが。

清水主査：7月5日号の市報で全戸配布させていただいております。それとはまた別に、働

き世代の方を対象にしておりますので、各小学校の児童にも配布させていただいて、親御さんに渡るようにしております。

鎗木委員：ごみの有料化に目がいつちゃっていて市報はそちらにばかり目がいつちゃっていたんですよね。それと、立派なウォーキングマップだと思うんですけど、別々というより一まとめに…一まとめにならなくても…いっぺんにいくつかのウォーキングができるようなのが見られたらいいのかなと思いました。一つ一つすごく丁寧で立派なんですけど、見やすいし曲がる場所もよく分かるのですが、立派すぎるような…手軽にここ行ってみたいあそこ行ってみたいというのが分かるようなものがあったらいいかなと思いました。あと、がん検診のところですが、私は薬剤師国保というものに入っております、そちらの方でやって…国立市の国保でお世話になっている部分もあるのですが…健診なんですけど、大腸がんとかはキットを薬剤師国保というところにお願ひすると送られてくるんですね。前立腺なんかもそうなんですけど、自分で採血とか自分でやってそれを郵送しているのですが、そういうのって保健センターさんの方では把握されていないですよね？薬剤師国保というのは、健診をしてもらっているとか。

堀江課長：把握していないですね。

鎗木委員：あと、子宮がんなんかもそうなんですけど、がんのアンケートで調査されたときに会社の方で検診を受けている方が多かった、いたということで、薬剤師国保、医師国保なんかもそうかもしれないんですけど、やっぱりそちらの方からでも検診されている部分もあるのかなと思いました。以上です。

堀江課長：マップですが、観光まちづくり協会さんで作成した全体のもがあったような気がするのですが…1枚のものでカラーのもがあったかもしれません。有料でお配りしていたかもしれませんが…不確かな情報で申し訳ありません。

※国立市が観光まちづくり協会の協力を得てガイドマップを無料で配布中。

橋本課長補佐：付け加えさせていただいてよろしいでしょうか。マップなんですけど、こちらの方は前回の白黒版もこのような形だったのですが、カラー版にして色々豆知識なども載せてリニューアルさせていただいているんですけど、実は東京都の方でマップ作りを行って補助金を出しますというような推進する制度がありましてそれにのっかっております。ですので、10分の10の補助金を使ってという形なので、かなりの枚数を印刷させていただいておりますので…せっかく貴重なご意見をいただいて参考になったんですけども、すぐ変えるというのはできないかなと…

鎗木委員：変えるというかそういうのもあればいいなと。

橋本課長補佐：ありがとうございます。

浅倉会長：今のお話で、ばらばらにあるものを一つにまとめものもあった方がいいかと。

新たに作るのは大変だけれど、まとめちゃうのはできるのですか？

橋本課長補佐：折り曲げてポケットに入れて身軽に歩けるというようなところでこのような形をとらせていただいていると。

浅倉会長：私は市の全体のものを見たことがあるのですが、あれは分かりにくいですよ。これは今見たら分かりやすい。今、検体の話が出たんですけど、大腸がんの便とか子宮頸がんを採るのは自分で採ってですけど…採血の話が出ました。薬剤師さんはたぶん採血が認められていると思うんですけど、一般の人はちょっと無理だと思います。

鏑木委員：前立腺のがあったなと思ったんで。

浅倉会長：たぶん薬剤師さんは採血認められているのだと…

鏑木委員：いえ、認められてはないと…ちょこっと付けるくらいで。薬局に置いているもので糖尿病とかの検査…滅多に置いてある薬局はないと思うんですけど、たしか自分でちょっと付けるだけの…できないですかね、分かりました。

清水委員：3点ほど意見を言いたいと思います。私は逆にこのマップはエリアが分かれているので、自分が行ける場所でいいなと思いました。私はふだん多摩川沿いを走っているのですが、すごくいいとこどりで書いているのですが、実際の道は、府中は自転車はここ、歩くところはここときれいに舗装されているのですが、国立になった途端何もなくて…週末は自転車の人がすごく多いので、ランニングの人も含めて歩く人は非常に怖い思いでこの道、特に9番のエリアなんですけど、ゆったりという感じで特に週末は歩けないだろうなと実際に走っていて感じていて…道路のこととかはもちろんこちらの管轄ではないとは思いますが、実際にやるという場所…特に市内、駅の方はすごくきれいなところが多いんですけど、私は谷保に住んでいるので、多摩川沿いとかのエリアですとけっこう暗い道も多くて、ようやく最近線路沿いに電灯がついて明るくなったりとか少しずつ改善されているんですけど、色々進める中で、実際歩く場所の状況というのもあるんじゃないかと思うので。特に国立は自転車が通る（多摩川の）あそこなんかきれいなになるといいなと、どこにどう言ったらいいのか分からないんですけど、その辺も含めるとこれがもっと活かされるのではないかと思いました。マップは私すごくいいなと思いました。あと、健診については主人の会社の健診で夫も私もやっているんで、けっこう全部満たしているんで、市からのお知らせが来るのはほとんど使わずに来ているのですが…全然使わないし、それをやらなくていい状況なのにわざわざ毎回健診のお知らせという形でうちに来るので、それはすごくコストがもったいないというか、もうやっているから大丈夫なのにといいのがあって、それを把握しきるのは難しいのかなとは思いますが、例えば、会社でそれはもうやっているからこういうお知らせは今後いりませんといったことをお伝えして、その後は自分の会社でやってくださいというのは駄目なのですか？その部分のコストというのがけっこうかかっているのではないかと思うのですが。私の周りもほとんど会社でやっている人が多いので。自営の方とか国保の方が対象になると思うのですが、その辺の線引きとか送る対象を限るとするのは難しいのかなと思うのですが、そこがけっこう無駄と言うか…主人がぜひこの場で言ってほしいということだっ

たので、お伝えしたいと思いました。最後に子育て支援のところの新規の事業の28番の妊婦さんの全面の面接というところで、私も10年ほど前ですが、第2子を出産して色々健診などでもお世話になって、まず歯科健診はすごく充実していて、私も子どもも来るのが楽しくて、虫歯の予防とか色々指導もしていただいてすごく良かったと思うのですが、今回妊婦さんからということで、これはずっと同じ担当者が産後までずっと担当してくれるのか、その時々でその人のカルテみたいなものがあって、その都度色んな人が対応するのか、その辺はどのような形になっていくのかお伺いしたいなと思います。

前田主査：お答えします。全数面接に関しては正職員の保健師を中心に対応しているのですが、それを含めた体制としましては、地区担当制を採っておりますが、地区担当の担当保健師が対応させていただいておりますが、面接に関してはいつどこの方が来るか読めないところがありまして、必ず面接した方が自分の担当地区とは限らないということがありますので、いったんは窓口ではどなたでも保健師が面接させていただくんですが、やはり継続してフォローが必要かどうかということもアンケートを中心に判断させていただくのですが、継続して産後も含めたフォローが必要な場合はそこから地区の担当保健師に申し送りしてフォローするという形をとる予定です。今まではどちらかというと、出生後からという形が多かったのですが、出生前からの切れ目のない支援ということでやらせていただきたい。ただ、役所なので、異動とかというのがありますので、そういった意味では途中で変わってしまうということはあるんですが。

清水委員：分かりました。健診とかで、うちの子がちょっと体が小さめということがあって行くと必ず体重で引っかかったりして、そうするとすごく責められているような気持ちになって、やっぱりその月齢でその体重がないとそういう指導になるというのはすごく分かるんですけど、経過的にみるとその子にとっての体重の変化や母親のこだわりとかで対応があるかなと思うんですが、初めての人だとその体重だけ見ての、やっぱりお母さんがちゃんとあげているんですかみたいな部分で…受けることがすごく多かったので、そういう意味で経過を分かってもらえる人に相談できるという環境だといいなと思って、この妊婦のときからというのが今回すごくいいなと私は思ったので、そういう部分も健診も含めてやっていただければなと思いました。ありがとうございました。

浅倉会長：子どもさんの健診の件はよろしいですか？

清水委員：はい、大丈夫です。

浅倉会長：健診の案内が社保に加入している人にはそんなにいないのではないかと。

清水委員：はい、全部フルで来るので、ちょっともったいないかなという印象が毎回。

浅倉会長：事務局の方で検討できますか？

堀江課長：たしかにそういった情報が把握できれば、その方は受診されていることになりまますので、いわゆる社会保険に加入されている方の健診の情報が中々自治体の方にうまく伝わらないというか…国としてもそこを何とかお互いに情報の融通

をし合えるよう協力してやっていくという方向にはなっているのですが、中々現実的には個人情報壁があつたりしまして進んでいないのが現状です。ただ、今言われたように、ご案内をしている方について、個人的に受けてらっしゃるといふことの把握方法は、例えば返信用の封筒を同封させていただいて、健診の写しをできればお送りいただけないかとかそういったことも一つの方法ではないかと思っておりますので、そういったことでやり方を工夫できないか検討していきたいと思つています。

浅倉会長：あと、多摩川沿いのところですね。保健センターではなくて道路課ですかね。

堀江課長：そうですね、道路の管理も色々あつて、河川敷ですと国が管理していたりですとか都道であつたり、市道であつたりということで、管理者がバラバラなんです。府中市さんは結構整理されてらっしゃるといふことですが、それが市道なのかちょっと分からないのですが…

清水委員：ちょうどそこに府中市っていうので、どこどこまで何キロというのがあつて、ちょうど府中市で切れるところまできれいで、国立に入った途端何も記載がないといふので、私は市のあれなのかなと勝手に思つていて、国立に入った途端何も無いやと。そこで記載が何も無いと慣れていない人だと自転車も…すごいスピードを出す自転車が多いので、けっこう歩く人が怖い思いをしながら歩いていて…まだ府中のところだと、自転車は真ん中、歩く人は外側みたいになつていふので、それに沿つて歩いていたりもするの、その辺が国立だから駄目なのかなと、すみません、勝手に思つちやつていたのですが。

堀江課長：都市計画課が主に所管している、いわゆる都市計画の部分にそこは含まれて、今都市計画マスタープランの改定、見直しの作業に入つていふのですが、今言われたように楽しく歩いて街を周回できるという方向に今後は持つていく必要があるだろうといふ意見が出ておられます。その一環で、さくら通りは歩道と自転車道と車道を分けてですね、歩行者の方も安全に通れるよう改良していふところですが、市としても方向性としてはやはり歩きやすい街づくりといふことでそういうことが求められておられます。中々いっぺんに変えていくことは難しいんですけども、少しずつですね、そういった方向で改良されていくことにはなつていふので、それは所管課の方も十分承知していふところですので、保健センターとしましても、そういったところと連携をしながら、健康づくりがしやすい街づくりを一緒になつてやっていきたいと思つておられます。

浅倉会長：期待しましょう。

清水委員：ありがとうございました。

浅倉会長：では、どうぞ。

樋口委員：私は市民委員としてあるまじき部分がございまして、告白しますと、今までかつてがん検診とかそういうものを一切受けていないんですね。国立はこれによりますと受診が少ないと、私も一つの要因になつていたと思つていふんですけども、私が受けない原因を申し上げてこれからの参考にしていただければいいかと思つ

ますが、参考にはならないと思います。それは自分がある程度体に自信があるということ、面倒くさいということ、病院嫌い、医者嫌いということ、それから集団的なものに何か懐疑的な思いがあるんですね。例えば、今問題になっておりますB型肝炎なんかはツベルクリンの注射器の使い回しで45万人くらいいるそうですよね。今、そういう面で、ちゃんといい状態でがん検診が行われているかどうか、そのへんをお尋ねしたいのですが。以上です。

堀江課長：がん検診につきましては、何が大事かといいますと精度の管理というものがございまして、国が実施の指針というものをきっちり作っております。死亡率が減少するということが大前提にありまして、それを国がきっちりデータを取った上でがん検診の実施ということをしてしております。国立市でも当然それに基づいてですね、5大がん検診を実施しておりますので、そういったデータに基づかないというものというのは中々行政というものはそこはできませんので、国が示した基準にのっとって実施しています。効果を国の方で確認していますので、そこをPRしていかないといけないのですが、当然多くの方にできるだけ受けていただければ、早期発見早期治療をすれば、がんにつきましても治癒する病気になってきておりますので、やはり発見が遅れますと中々治癒ができない、死亡につながってしまうという病気ですので、そういったところのPRも含めましてやってかなければと考えております。

樋口委員：国立市の場合、保健センターでがん検診をやっているのですか？

堀江課長：いえ、ここでは実施しておりません。主に東京都のがん検診センターというのが府中にございまして、そちらに委託をさせていただいております。

樋口委員：一番近いところはどこですか？

堀江課長：そうですね、府中のがん検診センターが近い所になります。あと大腸がん検診は検便キットですので、これは市内の、国立市医師会さんに委託させていただいておりますので、市内の指定医療機関であれば、大腸がん検診は受診することができます。あと、乳がん検診、子宮頸がん検診というのは女性限定になりますが、立川市内の医療機関もしくは国立市内の医療機関…産婦人科ということで限られてはきますが、そういった指定医療機関で実施しているところです。

樋口委員：では、国立市でやっているというのはありませんね？

堀江課長：あとですね、がん検診車というのを今年度は6回、土曜日なんですが、保健センターに4回、泉市民プラザに2回、土曜日にがん検診車が来て、集団検診となりますが、それも実施しているところでもあります。直営で保健センターとか直接市が実施しているものはありません。

樋口委員：分かりました。

浅倉会長：今のお話を伺っていて、検診というのは、症状の無い方にそういう病気を早く見つけてその人の健康を長く維持するというのが基本なものですから、健康だから受けないというのはちょっと…それからもう一つ今ありましたがん検診の精度管理の話ですけど、やはり精度管理は昔から厳しくなっていて、最近です

と、青森県の胃がん検診の精度が悪いとニュースに。やはり精度管理という視点の中でもどうしても例えば委託する医療機関が専門医でなかったということもあるかなという気もするんですね。だけど逆に考えると、半分の方は助けられているということがある。どちらかというところでは、精度管理は厳しくしてやっていますので。ただ、医療については 100 パーセントということはないので、どこで折り合いをつけるかということ。もう一つは、今度国立市の胃がん検診の血液で胃がんを見つけだしてやるということですけど、それは大事ですけど、その後の精密検査、精度管理をどうしていくかが大事なことだと思いますけど、中々難しい問題なんですけど、少しでも受診者に安心して受けていただければと。これは私達医療側にも大事な話なんですけど。

樋口委員：ありがとうございました。

浅倉会長：他に何か？よろしいですか？この事業計画については終わらせていただきます。その他のところですけど、保健センターに対するご意見、ご要望ございますでしょうか？

鎗木委員：組織改正の最初のところで質問なんですけど、子ども家庭部とか子育て支援課というのは保健センターの扱いではなくなるのですか？

宮崎課長：母子保健の部門については子ども家庭部の方に移行なのですが、保健センターさんの中でお仕事はしておりますので、ご連絡等は保健センターさんで構いませんので。場所は変わらないのですが、組織自体が変わったという位置付けです。

鎗木委員：先ほどの事業計画の中にも子育て支援とかあったと思ったのですが、新係名が保健センター係という？場所の名前じゃないってことですよね？

堀江課長：係の名称が保健センターという名称になりまして、母子保健等の事業が移管されて職員も分かれてましたが、保健センターの中には子育て支援課子ども保健・発達支援係の職員としておりますので、中で一緒にやっていくというイメージとなります。

鎗木委員：ありがとうございます。

浅倉会長：他に何かありますか？なければ議題としては終わらせていただきます。この次の第 2 回の日程をご提示させていただきたいと思うんですけど、事務局の方では 11 月の 29 日の水曜日はどうでしょうかという提案があるんですけど、いかがでしょうか？時間はいつもと同じ 13 時 15 分ですね。よろしいでしょうか？そうしましたら、大分先ですけど、この次は 11 月 29 日の水曜日の午後 1 時 15 分から予定させていただければと思います。特になければ今年度の第 1 回の保健センター運営審議会は終わらせていただきます。どうもお忙しい中ありがとうございました。